

競争社会の終わり

ある大学祭のフリーマーケット企画委員での一場面

Aくん「本気で売上を確保するために店ごとに順位を付けるのはどう？」

Bさん「えっ！ なんて売上を競争あること？」

Aくん「そう!! その方が面白いし、やる気が出るよ！」

Bさん「何でそんなことするか分からないよ～
そんなことするために参加している人は少ないと思いが
そもそも目的がぶれてるよ～」

Cくん「どうどう!! そんなやり方は古いよ!
そんなことでやる気になる人は少数派でしょ!!」

Aくん「どうだわ…… いいアイデアだと思っただけ……」

そうなんです!! もう時代が変わったんです。

私たちの保険販売もそうですが、営業マンを抱えている会社の多くが、営業マンのモチベーションを上げるために順位をつけたり、競争させたり、表彰したりしてきましたがそのやり方がとうとう「古い」という感覚になってしまいました。この競争手法は、ちよと今年の8月30日で終わったような気がします。この手法に肌が合わない人、価値が合わない人が過半数を超えたように思えます。となるとこれから会社のオラスの壁に棒グラフやランキング表を貼っているのを目にした過半数は「まだこんなことやってるの!!」「古い手法だなあ」と感じることをしよう。しかし長くこの習慣が身に付いた人からすると、順位、競争、表彰のない世界は考えることも出来ずこの文章そのものを受け入れられないことと思います。

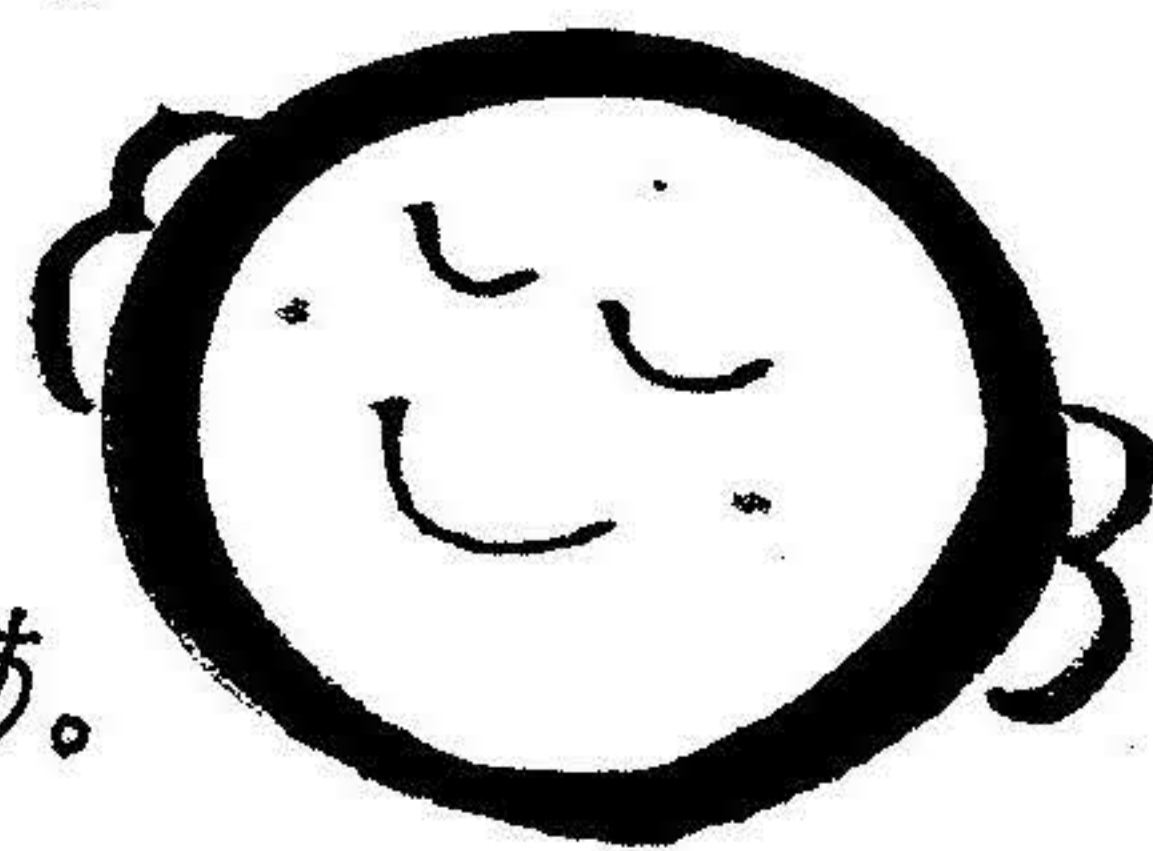
これからのモチベーションの「仕事のやりがい」キーワードは →

- わくわくする仕事にする
- 人の役に立つ
- 感謝される
- 仕事そのものへの興味

さあ次の時代へ
本物の時代へ

お地蔵さん たより 2013年10月

読んで
いただき
ありがとう
ございます。



ソニックジャパン金沢支店 支店長
(社)生命保険ファイナンシャル
アドバイザー協会(JAIFA)
前本部副会長、石川県協会相談役(前会長)

鳥越介順(とりごえ かいじゆん)

お笑い 小話

♪ はじまり はじまり ♪

- 上司とカラオケに行ったら、ハミングを表す「Hum.Hum…」という部分を「ハム.ハム.ハム…」と歌っていた。
- アイスクリーム屋さんで「ダブル」を注文し「コーンは別々にして下さい」と言っていました。
- 「スポンジ一杯で驚くほど白くなる」と宣伝している洗剤の箱の中には、あきれるほど大きなスポンジが入っていた。
- 電車の中で、3歳ぐらいの女の子が私の服を指差し「あっ! パパのピジャマと同じ服だ!」と叫んだ。そばにいた母親までもが「あら、本当ね。」と言った。

- 「嘘八百」も「USO 800」と書くと、グローバルスタンダードな感じがしてくる。

俯 瞰

中間テスト直前にカゼを引いてしまい、思うように勉強が出来なくて落ち込んでいる女児(高3)に

私「大丈夫!! テストが1回ぐらい悪くても心配いらん!!」

私「気持ちが悪くなるお話をあげようか?」 女児「うん」

私「鳥の目のお話ねんけど…長い人生を鳥の目になって上から自分を見下ろすと…人生全体が見えてきて、目先のことで振り回されている自分がバカらしく思えてくるよ」と

偉そうに言うと

女児「え、なんて俯瞰、て言うんやろ」 その話を聞いていた

妻も「どうどう、それは俯瞰の話やね、字書ける?」

私「えっ! 何それ…ふかん?! 何?? どんな字??」

女児「え、俯瞰も知らんの?」 妻も「あららら…お父さん」

一気に立場が逆転してしまい

私「んー聞いたことぐらいあるわ!!」と、その場を去っていきま

カーナビのようなイメージで常に自分の人生の俯瞰図のモニターを見ながら人生を進んでいくと不安なことが減るかともね

